

オンライン診療車

小国郷で来月出発

公立病院の「柴三郎号」

小国公立病院（小国町）が、遠隔地への移動診療「医療Maas（マース）」に使うオンライン診療車が完成。29日、北里柴三郎記念館で除幕式があった。熊本県内では八代市に続く2台目の導入。2月6日から小国郷（小国町、南小国町）内の4カ所に出向いて診療を始める。

診療車には、熊本発の医療機器ベンチャー「AMI」が開発した、心音と心電を

同時に測る「超聴診器」など最新鋭の遠隔医療機器を搭載。看護師らが乗り、柴三郎記念館や杖立、黒川の両温泉街、元氣プラザ中原を毎月2回巡回する。小国公立病院近くのサテライト診療所にいる医師が画像データを見ながら、テレビ電話を通じて問診する。1日最大7人程度の診療を目指す。

小国町出身の世界的細菌学者、北里柴三郎にあやか



り「柴三郎号」と命名。車体に柴三郎のイラストと観光名所の写真をデザインした。内装には特産・小国杉をふんだんに使った。国の「デジタル田園都市国家構

想」の交付金を活用。病院主体事業で初めて採択された。この日は1771回目の柴三郎の誕生日。公立病院事業管理者の片岡恵一郎医師



写真上は、小国公立病院が導入したオンライン診療車「柴三郎号」。同下は、小国杉がふんだんに使われたオンライン診療車の車内。29日、小国町

（53）は「通院が不便な患者に心地良く受診できる場を提供し、少子高齢化が進む全国の地域医療のモデルになればと思う」と話した。

（花木弘）